

「事実を表す」 *si* (*si factuel*) 再考 — 条件文の日仏語対照研究の観点から —

三藤 博
(大阪大学)

フランス語のいわゆる「事実を表す *si* (*si factuel*)」に関しては、そのさまざまなパターンを下位分類した Stage (1991)、*si factuel* の前件の機能はテーマ (話題) の提供にあると明快に規定した石野 (1993)、基本的に条件文のカテゴリーの中でとらえて分析した林 (2001) などの先行研究がある。本発表では、現代日本語の条件文の研究として現在最も包括的なものである有田 (2007) における日本語条件文のカテゴリー区分、とりわけ予測的条件文と認識的条件文の区分を念頭に置きつつ、フランス語の *si factuel* を対応する日本語条件文と対照させ、「条件文」というカテゴリーにおける両者の位置づけについて考察する。その対照を踏まえて、さらには Dancygier and Sweetser (2005) を初めとするこの両著者の一連の条件文研究とも関連させつつ、本発表はフランス語の *si factuel* をあくまでも条件文の一種として分析した林 (2001) の方向性が有力なものであることを再検証し、可能な限りその方向性を擁護する。しかし、日本語条件文との対照からもその限界が浮かび上がってこざるを得ないことも同時に指摘して、この問題点をどのように解決すべきかについて、日仏語条件文を対照した結果を踏まえて考察する。